

令和7年度第1回津久井高等学校学校運営協議会

開催日時 令和7年6月24日（火）

会 場 津久井高等学校福祉科デジタル実習室

学校から、全日制の話題では、生徒がそれぞれの得意分野で主人公となって学校生活や学校行事に取り組んでいる。地元・地域と連携・協働、高大連携や卒業生、地元企業による説明会等、また、地域探究活動とも関連させて、地域とのつながりを大切にしながら、進路実現への取組を推進していく。また、福祉科は、地域行事への参加を積極的に進めるとともに専門職としての意識を高めていく。「地域探究」活動では地元・地域の特色を活かした生徒活動の場の拡充を図って、地元・地域における生徒の学習機会を充実させ、教科横断的な視点や、ルーブリックを使用した指導と評価を導入した探究活動を展開し、地域の活動団体等との連携を強化していく。

定時制からは、社会で求められる基礎・基本的な学力や技能を定着させ、それらを活用できる能力を養うためにきめ細かな学習指導・個別支援の充実を図る。社会生活で求められる規範意識や判断力を身に付けさせ、他者と協働できる態度を育てる。また、生徒一人ひとりが得意分野や強みを活かせるよう、自己肯定感の高揚に繋がる支援体制の充実を図ることを目指す。

意見として、津久井高校に通う生徒は地元の子が多い。学校目標設定の随所に出てくる「地域」が学校運営の正にキーワードになっていると感じる。高大連携もさらに深めていって欲しい。大学・短大側も連携に対する熱意は相当に持っている。高校の授業料無償化が始まっていることもあるし、上級学校への進学が進路実現の選択として拡大してきているのではないか。上級学校へ進学する生徒を増やして欲しい。進学者が増えることは、知識や技能をさらに深めて地元に戻元する生徒を増やすことにもつながってくると思う。

今後、上級学校への進学を望む生徒は増えるのではないか。チャレンジさせたい。チャレンジする価値は大いにあるし、チャレンジする意義もある。保護者目線でいうと、上級学校への進学にあたっては入学金（支度金）に相当のお金がかかることが大きなハードルである。奨学金についてももっと知りたい、という質問や入学金を用意できないという状況もある。大学や短期大学では、入学後に奨学金や支払いの制度を整えている。という情報もいただいた。